前田家の宝物 尊経閣文庫

前田育徳会展示室は、前田家が収集した古典籍、古文書、甲冑、陣羽織、絵画などの宝物を所蔵する「尊経閣文庫（そんけいかくぶんこ）」の中から、選りすぐりの品々を展示している。前田家は1583 年から 1871 年まで加賀藩（現在の石川県と富山県）を治めた。

尊経閣文庫は 1 万点を超えるコレクションがあり、東京に保管されている。石川県立美術館は、前田家と金沢の歴史的なつながりから、所蔵品のうち約 400 点の美術工芸品の所蔵・展示が認められている。

歴史的背景

江戸時代（1603-1867）初頭までには、前田家は日本有数の豪家のひとつとなり、加賀藩の年収は幕府に次ぐものとなっていた。前田家の財力により、芸術の振興に投資を行い、多くの優れた作品を収集することができた。加賀藩 3 代藩主・前田利常（1594-1658）と、その孫で 5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）が収集したものが、尊経閣文庫のコレクションの大部分を占めている。

歴史的には、宝物の一部は江戸（現在の東京）の前田家邸宅に保管されていた。江戸時代、藩主の屋敷は藩内と江戸の二カ所にあった。幕府の「参勤交代（さんきんこうたい）」という政策により、藩主は毎年、江戸と自分の領地を交互に往復しなければならなかった。このため、1867 年の幕府滅亡時には、収蔵品の一部は東京にあった。残りの金沢藩邸にあった宝物は、明治時代（1868–1912）に東京に永住することになり、東京に移された。

1926 年、前田家 16 代当主の前田利為（1885-1942）は、前田家のコレクションを整理・保存するために財団法人前田育徳会を東京に設立した。尊経閣文庫には、国宝 22 点、重要文化財 77 点が収められており、一族のコレクションとしては驚異的な数である。寄託内容の大半は東京に残され、貴重な古文書（古典籍）であり、研究者以外には公開されていない。一般公開は石川県立美術館の前田育徳会展示室のみである。

前田育徳会展示室

この展示室では、絵画、武具、能装束、茶道具など、展示テーマに合わせて月替わりで展示を行っている。前田家伝来の鎧兜、陣羽織、加賀象嵌の鐙、茶道具、山水画、書道、時には百工比照（工芸技法を示す珍しい見本のコレクション）など、前田家ゆかりの品々を展示している。

保存状態のよい貴重な品々を間近で見ることができ、日本有数の武家が誇った名品を鑑賞することができる。